

厚生労働行政推進調査事業費補助金
(地域医療基盤開発推進研究事業)
患者のケア移行に伴う薬剤師間の情報連携の
現状課題の把握とその解決に向けた調査研究 (24IA002)
分担研究報告書

「回復期・慢性期・在宅期における
患者のケア移行時の薬剤師間の情報共有・連携の現状調査」

研究分担者 藤原久登 昭和医科大学藤が丘病院・准教授
研究協力者 國津侑貴 京都大学医学部附属病院薬剤部・特定助教

研究要旨

本研究は、回復期・慢性期・在宅期におけるケア移行時の薬剤師間の情報共有に着目し、現状の課題を整理することを目的とした。現代の医療においては治療・療養の場の移行が多様化し、薬剤情報の円滑な連携は患者の安全と治療の質向上に直結する重要な課題である。しかし、薬剤師間の情報共有は依然として十分に普及しておらず、特に回復期・慢性期医療や在宅医療においては、マンパワーやモチベーション、診療報酬制度の制約などにより、実態把握や効果検証が進んでいない。

本研究では、回復期・慢性期医療機関が関与するケア移行を①自宅・施設⇄回復期・慢性期病院、②回復期・慢性期病院⇄他医療機関、③回復期・慢性期病院内転棟の3フェーズに分類し、文献調査を実施した。その結果、①の入退院時の薬剤情報共有に関する報告は一定数認められた一方、②の転院時、③の院内転棟時における薬剤師間連携の報告は極めて限られており、全体として回復期・慢性期・在宅期における連携実態に関するエビデンスは乏しいことが明らかとなった。

今後は、各ケア移行フェーズで必要とされる情報項目や提供手段、タイミング、連携対象患者の優先順位などを明確にするため、全国規模のアンケート調査やインタビュー調査が求められる。薬剤師間の情報連携を強化し、シームレスな薬物療法の実現を図ることは、地域包括ケアシステムの進化と医療の質向上に大きく寄与するものと考えられる。

研究協力者

小瀬英司 順天堂大学医学部附属順天堂
医院薬剤部・課長補佐、順天堂大学薬学部・准教授
濱浦睦雄 蕨市立病院薬剤科・薬剤部長

澁田憲一 医療法人良秀会 法人事業
本部・本部長代理
豊見敦 日本薬剤師会・常務理事
村杉紀明 日本薬剤師会・理事

A. 研究目的

現代の医療における治療・療養の場の移行は多様化し、患者の連続的な治療と安全を確保するためには、医療従事者間での情報共有が重要となる。特に使用薬剤の管理と情報共有は、患者の安全と治療の質の向上に直結する。医師間・看護師間においては診療情報提供書や看護サマリによる連携が行われているが、使用薬剤についてきめ細やかな情報を共有することは困難なことも多い。一方で薬剤師間でも適切な情報共有は道半ばである。日本病院薬剤師会が公表している「薬剤管理サマリー」（病院・病院間、病院・薬局間）はこのギャップを埋めるための一歩であり、その使用により、退院後のイベント減少や服薬アドヒアランスの悪化防止、薬局薬剤師の服薬指導の質向上に寄与することが報告されている。しかし、外来患者の継続的なフォローに用いられている「トレーシングレポート」（薬局・病院間）の連携に比べて、病院薬剤師間の連携は、マンパワーやモチベーションなどの課題から、十分に普及しておらず効果があるとは言い難い。さらに、急性期病院の中でのケア移行（救急・周術期・ハイケアユニット間等）でも、情報連携の手順書が定まっていない。加えて、タスク・シフト/シェアの観点から、ケア移行時の薬剤師による情報連携が、医師の負担軽減や医療の質の向上にどの程度寄与するのか、医療DXの観点から、今後の連携手法・体制がどのように改善可能なのか十分な検証は行われていない。すなわち、多様化する患者のケア移行時において薬

剤師間の情報共有について現状課題の抽出、論点整理が、地域包括ケアシステムの更なる進化のためには必要となる。

回復期・慢性期・在宅期においては、薬剤師の関わりが求められているものの、マンパワー不足や診療報酬上の限界点が存在する。本研究では回復期・慢性期・在宅期におけるケア移行に焦点をあて、薬剤師間の情報共有について現状課題の抽出、論点整理を行った。

B. 研究方法

本研究では回復期・慢性期医療機関および在宅期が関与するケア移行として、次の3つのフェーズに分類した。（図1）

- ① 自宅・居住施設・介護施設⇔回復期・慢性期病院（入院・退院）
- ② 回復期・慢性期病院⇔他の医療機関（急性期病院、回復期・慢性期病院）（転院）
- ③ 回復期・慢性期病院内（転棟）

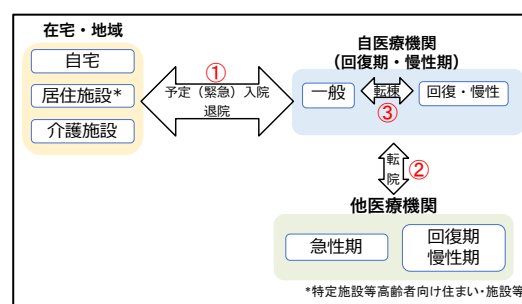


図1. 回復期・慢性期医療機関および在宅期が関与するケア移行

それぞれのフェーズにおける薬剤師間の情報共有に関する既存の研究を体系的に調査し、現時点での報告内容と課題点を収集し、エビデンスの整理と研究の位置づけを行った。

(検索方法)

原則として日本における報告を対象とし、検索するデータベースとして、医中誌を選択した。十分な文献情報が得られなかったフェーズについては、インターネットに公開されている報告書等も対象とした。

検索に使用したキーワードは以下の通りである。

検索キーワード：急性期医療、ケア移行、ケア連携、ケア統合、患者転送、ケアの分断、薬剤師間連携、薬薬連携、情報共有、薬剤管理、実践例、効果評価、Transition of Care、Medication Reconciliation、Care Coordination、Fragmentation of Care

本調査は2024年6月～7月に実施した。

(倫理面への配慮)

本研究は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の対象外である。

C. 結果

参考資料1に収集された報告を示す。以下、フェーズごとに結果を示す。

① 自宅・居住施設・介護施設⇔回復期・慢性期病院（入院・退院）

本フェーズでは13報の報告が収集された。広島県下における退院・転院時の情報提供書（薬剤管理サマリー）の実施状況の調査（参考資料1・文献7）では、退院時薬剤情報管理指導料算定外の病棟でも薬剤管理サマリーが6割の施設で活用されており、地域包括ケア病棟や回復期リハ病

棟においても薬剤管理サマリーの必要性が高いことが示唆された。また、回復期に勤務する病院薬剤師と薬局薬剤師を対象とした調査（参考資料1・文献12）では、薬局薬剤師が最も共有を希望する情報は主病名であり、次いで調剤方法、検査値、退院時処方内容であった。

② 回復期・慢性期病院⇔他の医療機関（急性期病院、回復期・慢性期病院）（転院）

本フェーズでは5報の報告が収集された。報告は少なく、病院間の薬剤師連携に関する報告はみられず、薬剤師間の情報連携が主ではない文献（薬剤師-他職種連携）のものがいくつか存在した。転院時の文書（フォローアップ依頼書）による薬剤師間連携の必要性を評価するための調査（参考資料1・文献4）では、転院先より医師の診療情報提供書にない情報の補完に薬剤師間のフォローアップ依頼書を用いた薬剤情報連携が有用であり、48例中27例で処方提案につながったと報告されている。また、脳外科病棟での急性期後、回復期病棟で現行の薬物療法を正確に継続するための薬剤情報提供書有用性を調査した報告（参考資料1・文献5）では、紹介状において全体の46%に実際の使用薬剤に関する記載不備があり、薬剤師の作成した薬剤情報提供書による内容の補完が重要な役割を果たしていることが示唆された。

③ 回復期・慢性期病院内（転棟）

本フェーズでは報告が乏しく、収集された報告は学会発表の内容を含めて3報の

みであった。薬剤情報提供書を作成し介入を行った取り組みの前後で、回復期病棟看護師にアンケート調査を実施した調査(参考資料1・文献19)では、「内服薬の中止・再開状況」「薬剤の中止理由」についての看護師の認識転棟時に内服薬の処理・確認に要した時間は1件あたり平均7.5±1.1分(n=109)であったが、「持参薬」「臨時薬」などが含まれた複雑なものほど時間がかかる傾向があった。

D. 考察

自宅・居住施設・介護施設と回復期・慢性期病院の間の連携に関する報告は本文献調査において最も多かった。入院時もしくは退院時は患者の治療フェーズや関わる医療従事者が大きく変化する場面であるため、安全かつ有効な薬物療法を継続するためには情報連携が最も行わなければならない場面であることに対する結果であると考えられた。入院中に変更された薬剤の情報とともに保険薬局との情報共有が望ましいと考える。

今後そのツールや連携方法などを模索していく必要がある。特に急性期からの再開忘れやDAPTからSAPTに変更する変更忘れなど、事故につながる重要な場面であるため、その連携が望まれる。

全体を通して回復期・慢性期・在宅期に関連する薬剤師間の情報連携に関する報告は少なく、実態を把握することは難しかった。

今回の調査により、ケア移行や疾患によって必要な情報が異なり、不十分な部分があると示唆された。今後、全国規模のアンケート調査やインタビュー調査を実施し、各ケア移行時に必要な情報、情報提供手段およびタイミング、情報共有が必要な患者の優先順位について示すことで、よりシームレスな薬物療法が実現できると思われる。

E. 結論

回復期・慢性期病院、在宅期を軸としたケア移行時の薬剤に関する情報共有について、その重要性は認識されているものの、報告は非常に限定的であった。今後、連携の実態を調査し、連携に必要なツール等の手法を提言することで、安全で継続的な薬物療法の実施に貢献できると考えられる。

E. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

参考資料 1. 回復期・慢性期・在宅期における患者のケア移行時の薬剤師間の情報共有・連携に関連する報告リスト

| No | フェーズ 番号 | 雑誌, 巻, ページ, 年 (URL) | 文献タイトル |
|----|------------|---------------------------------|---|
| 1 | ①② | 日本病院薬剤師会雑誌, 60, 60-64, 2024 | 地域包括ケアを支える薬剤師業務～回復期および診療所の実践事例～院内外の薬剤師間連携 |
| 2 | ①② | 日本病院薬剤師会雑誌, 58, 110-111, 2022 | 回復期における病院薬剤師業務～中小病院の実践事例を中心に～入院時の連携（ポストアキュート） |
| 3 | ①② | 日本病院薬剤師会雑誌, 58, 112-113, 2022 | 回復期における病院薬剤師業務～中小病院の実践事例を中心に～入院時の連携（サブアキュート） |
| 4 | ② | 日本病院薬剤師会雑誌, 58, 1177-1183, 2021 | 転院時の薬剤師関連の有効性に関するアンケート調査～転院時フォローアップ依頼書を用いた薬剤情報連携～ |
| 5 | ③ | 日本病院薬剤師会雑誌, 53, 698-802, 2017 | 脳神経外科病棟における「薬剤情報提供書」を用いた転院時の取り組み |
| 6 | ② | 移植, 55, 332, 2010 | 病院間連携・紹介受ける側の薬剤師の役割と外来腎移植患者への関わり |
| 7 | ①② | 広島県病院薬剤師会誌, 57, 57-64, 2022 | 広島県下における退院・転院時の情報提供書(薬剤管理サマリー)の活用に関する実施状況の調査 |
| 8 | ① | 医療薬学, 46, 446-451, 2020 | 薬剤管理サマリーと患者のイベント抑制に関する調査 |
| 9 | ② | 日本病院薬剤師会雑誌, 58, 841-843, 2022 | 回復期における病院薬剤師業務～中小病院の実践事例を中心に～入院時の連携 |
| 10 | ① | 日本老年薬学会雑誌, 4, 21-28, 2021 | 病棟専任薬剤師による在宅医療関係者との退院支援強化により良好な血糖コントロールが得られた 2 症例 |
| 11 | ① | 日本病院薬剤師会雑誌, 59, 643-650, 2023 | 地域包括ケア病棟または回復期リハビリテーション病棟の病院薬剤師と薬局薬剤師の医療連携における現状と課題 |
| 12 | ① | 日本病院薬剤師会雑誌, 58, 1315-1321, | 地域包括ケアシステムの回復期における病院薬剤師と薬局薬剤師の医療連携に必要な |

| | | | |
|----|----|---|---|
| | | 2022 | 患者情報に関する調査研究 |
| 13 | ① | 日本病院薬剤師会雑誌, 47, 1273-1276, 2011 | 「お薬手帳」の配布意義と記載内容の検討 回復期リハビリテーション病棟入院患者と 地域薬剤師へのアンケート調査から(原著 論文) |
| 14 | ① | 日本病院薬剤師会雑誌, 59, 593-599, 2023 | 過疎高齢化地域の地域包括ケア病棟におけ る薬剤師介入の必要性に関する解析～急性 期病棟との比較～ |
| 15 | ① | レギュラトリーサイエ ンス学会誌, 12, 3-15, 2022 | 入退院時における地域の薬局薬剤師と病院 薬剤師の情報連携の有用性に関する研究 |
| 16 | ① | 医療安全実践教育研究 会誌, 8, 25-26, 2020 | 医薬品の安全使用と多職種連携 回復期か ら在宅における医薬品安全に関する情報共 有 薬剤師の視点から |
| 17 | ①② | Journal of Clinical Rehabilitation, 26, 1157-1165, 2017 | 【日本の将来を左右する ICF を用いた社会 保障制度の確立】回復期リハ病棟における ICF の活用 地域につなげる ICF 回復期 からみた急性期病院、介護施設、在宅との 情報連携 |
| 18 | ① | 医学と薬学, 81, 221- 225, 2024 | 【進化する緩和医療と地域連携】在宅緩和 ケアにおける退院前カンファレンスへの関 わり 在宅移行時における病院薬剤師と薬 局薬剤師の連携の必要性 |
| 19 | ③ | 日本医療薬学会年会講 演要旨集 (suppl.1): 387-387, 2015. | 急性期病棟から回復期病棟への転棟時にお ける服薬管理に関する検討～急性期病棟担 当薬剤師による薬剤情報提供～ |
| 20 | ③ | 日本医療薬学会年会講 演要旨集 (suppl.1): 424-424, 2013. | 転棟時における薬剤師による処方見直しと 処方提案～適正な薬物療法に向けて～ |
| 21 | ①② | 月刊薬事, 58, 108- 108, 2016 | 心不全患者における転院や退院などのケア 移行時プログラムの開発 |

フェーズ番号と対応するフェーズ

- ① 自宅・居住施設・介護施設⇔回復期・慢性期病院（入院・退院）
- ② 回復期・慢性期病院⇔他の医療機関（急性期病院、回復期・慢性期病院）（転院）
- ③ 回復期・慢性期病院内（転棟）